

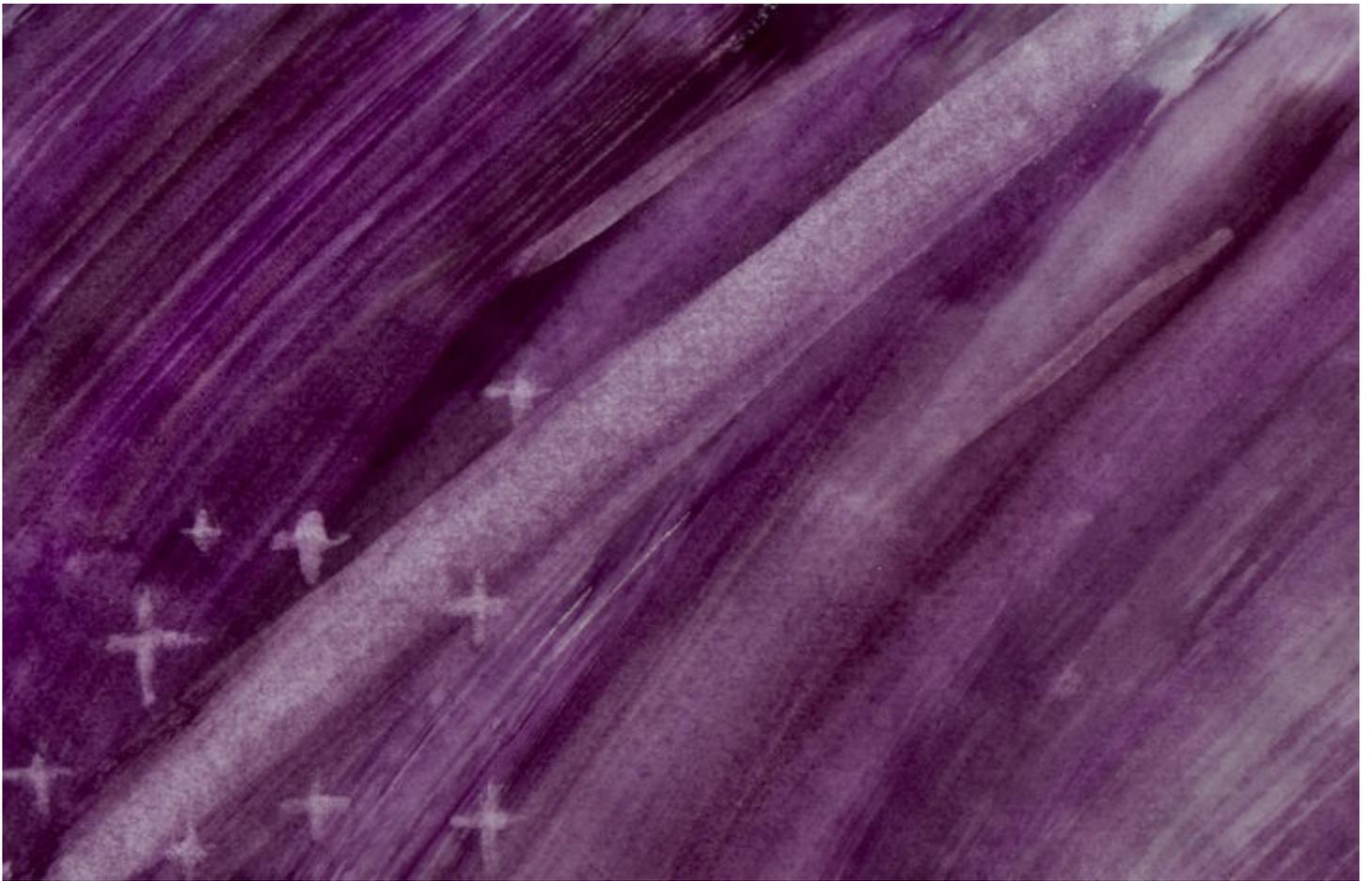
ひとでくんの流れ星

さく ゆうほう





ひとでくんは夜の空が大好きです。
月や星をみているとわくわくドキドキ。



なかでも一番のお気に入りには流れ星。
ぴゅーってときのしっぽのきらきらが大好き。
「いいいいいな、僕も流れ星になりたいなあ。」



「おおきくなったらね。」
ママやパパに言ってもそう言って笑うだけで、
どうやったら流れ星になれるのか教えてくれません。



魚の群れもサンゴの林もすっかり面白くありません。
ひとでくんは毎日星になれるようお祈りをしました。



ある日のこと山のうえを歩いているときです。
ぐら。ぐらぐら。ぐらぐらぐら…どっかああん。



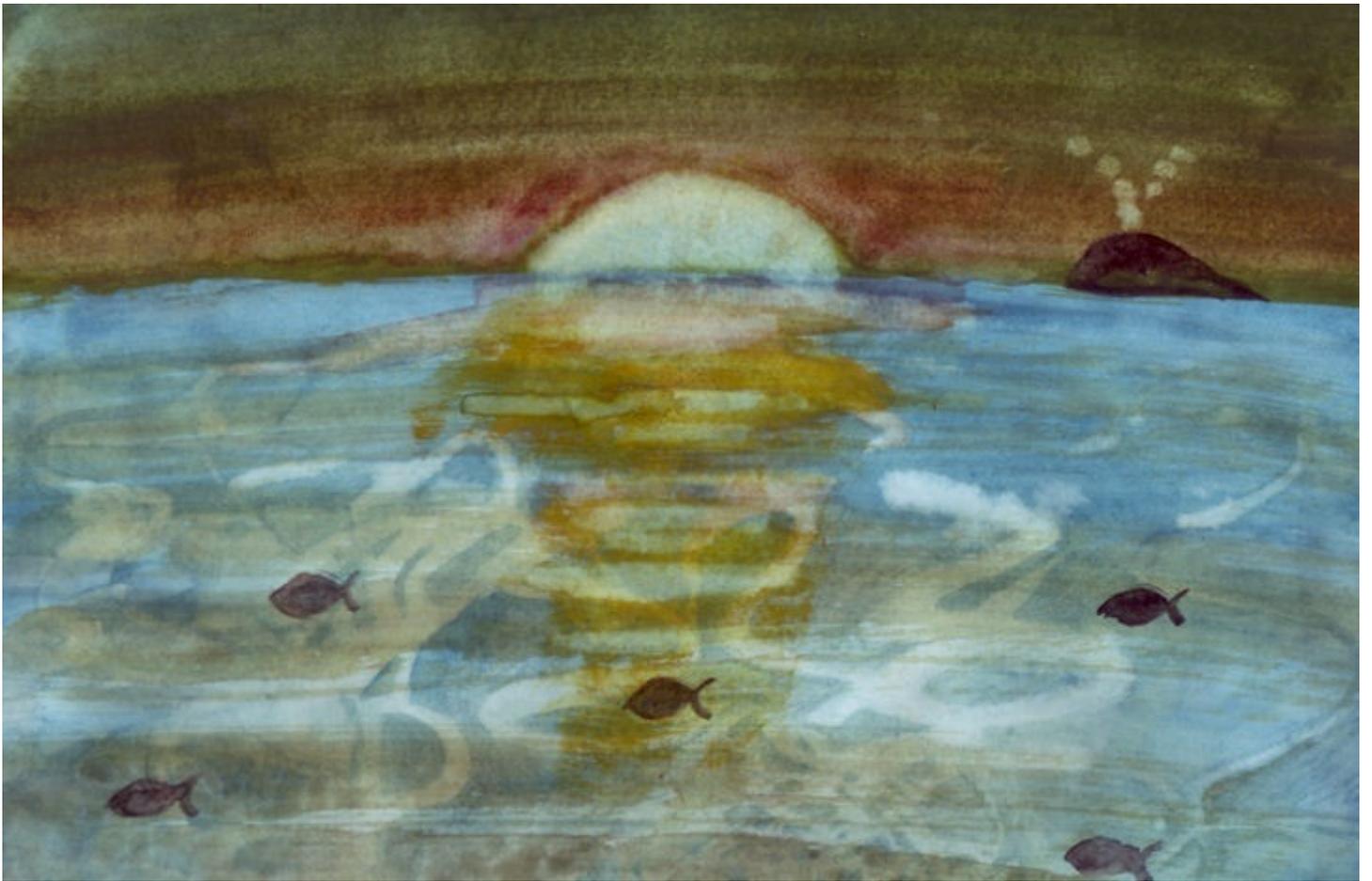
ぎゅうーん。
ひとでくんは高い空の上まで
吹き飛ばされてしまいました。
まわりではたくさんの星がひとで君を
珍しそうに眺めています。



ひとでくんはうれしくて楽しくてたまりません。
さっそく星と友達になっておっかけっこをしたり、
歌を歌ったりしました。



空の上から眺める景色は最高です。
陸にはたくさんの花や木、動物や鳥がいます。
「あの花、どんな匂いがするんだろう？
あの鳥になって飛んでみたいな。」



そして海もなんて広いんでしょう。
行ったことのない場所やみた事のない魚がたくさん。
「うわあ、あそこで遊んでみたいなあ。
あれ、あの魚どうなってんだろ。」
わくわくしてたまりません。



「あれ、パパとママだ。」
ママは泣いているような顔、パパは少し怖い顔をして
家からうんと遠いところを歩いています。
ひとでくんは「僕を探しているのかな。」と思って
急にさみしくなりました。そのとたん…



ひゅーん、どーん。
ひとくくんは空から流れ星になって
落っこちてしまいました。
空では星たちが手を振っています。
「さよなら、またね。」



落っこちてきたひとでくんをママは
ぎゅうっと抱きしめました。
たくさんたくさん頬ずりをしました。
パパはなんにも言わないでひとで君の話を聞きました。
そしてにっこりすると高い高いをしました。



「今度は鳥や花になろうっと。
遊びたいところもたくさんあるんだ。」
ひとでくんはパパとママにいいました。
「だから僕、ゆっくりゆっくり大きくなるね。
決まったら教えてあげる。」
そして家まで三人で手をつないで、
ゆっくりゆっくり帰りました。

おしまい。